者 質が変わってきたと 問題は、廃棄物の

産廃処理業界は、

へきな体質改

善が求められ しいる。「気

地震などで災害廃棄 物の発生が増加。今 と。大規模な台風や 廃処埋には2年以上 回の台風19号の災害 あったり災害によっ 入っている可能性が 木が多量だったり、 有害性のあるものが

く異質とも言える。 海水が入ったり、倒 るほど [焼却]や | 埋 似ているが、まった

循環型社会を求め

立」の重要性が浮か

入る。災害廃が代表 び上がる。焼却には 熱利用やごみ発電も

的だが資源化量が増 も増える。と えるほど残さ ラや木くず発 とろが、廃プ

価 を

会に変わり、産廃 国の協会の名称が順 八「産業資源循環協 言うまでもなく全 った日常品や家具が いる。泥まみれにな 度に大量に発生す

きたからだ。 がなくなって 業者」の垣根 理」と「資源

かかるともいわれて

て違いがある。

焼却処理は困難な状

生量の増加も

あり、残さの

循環型社会に向か

ることなどは今まで なかった。建設系の 高炉など異業種とも

の資源化が一般化し

処理や資源化を求め てセメントや製紙、 その都度、最適な 没だ。

協力して、復旧に尽 を高める工夫と理解 含めて廃棄物の価値 うとき、焼却・埋立も

が必要になる。(渋)

混合廃棄物に性状は

力してきた。